

談天

DANTEN



小川 智

一般社団法人東北経済連合会 参与

光
陰
如
箭

岩手大学の学長に就任したのが、令和2年(2020年)4月。まさに光陰矢の如しだ。未知の新型コロナウイルスの感染拡大防止に追われる日々が続き、これまで当たり前のように行ってきた卒業式・修了式も入学式も挙行できずに2年が過ぎた。東日本大震災以来のことである。今年こそは保護者や関係者を招いての式典としたかったが、新型コロナウイルス感染症はその時点でも好転しているとは言い難い状況で、感染拡大防止の観点から学生諸君のみの出席による卒業式・修了式そして入学式とした。大変残念ではあったが、一方でこのような状況下でも3年ぶりに一堂に会しての卒業・修了生への学位授与、そして新入生を迎える式典が挙行できたことは、私を含め関係者一同の喜びであり、安堵したところでもあった。

学生の学びのこの2年間は、これまでに経験のない「未知の常態」とも言うべき日常だった。幸い遠隔での授業は、令和2年(2020年)の前期のみであり、後期からは対面での授業を再開し現在に至るが、大学キャンパスでの授業やゼミ、研究活動、さらには課外活動に至るまで何らかの制約が生じてしまった。それでも学生・教職員が一丸となって、それを「新たな常態」として受け入れ、臨機応変に修学への工夫が行われた岩手大学総体としての取組を大変誇りに思ったし、感謝もしている。その「新たな常態」が求めている社会への変化は思ったよりも速く、今まさに起こっているデジタル変革は世界的な加速を見せている。サイバー空間とフィジカル空間とを融合させた経済発展と社会的課題の解決を両立する Society 5.0の到来も予想以上の速さで差し迫っていると見てよい。

一方、人間の持つ価値観や利益の対立によって起こる世界各地での紛争や内戦は、軍事衝突等にまで及び悲惨な結果をもたらしている。人間の持つ多様性の中から生まれる様々な価値観を相互に理解できるような未来の日本、そして世界を創造していかなければならない。岩手大学の卒業生である宮沢賢治の精神「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」を受け継ぎ、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現と予測不能な時代を切り拓く強靱でしなやかな人材として、社会に貢献する学生の育成に全力を尽くしたい。そして感染症の拡大だけでなく、日本をはじめ世界各地でおこる地震や台風・大雨による多くの自然災害に対して、東日本大震災の被災県にある国立大学で学んだ学生として、人と人との「絆」の大切さを社会で出会う人々に伝えてほしいと思っている。光陰如箭、過去から現在そして未来へと加速しているように感じる時の流れ、制御するのは我々のこのころのゆとりではなかろうか。

(岩手大学 学長・おがわ さとし)